

一橋論叢第七十七卷総目次

論 説

「国民スポーツ」とは何か……………	関 春 南	一 号	一 頁	通 頁
「トゥルネリススポーツ抗争」と労働者体育家連盟……………	唐 木 國 彦	一	三	三
スポーツの本質と研究方法……………	内 海 和 雄	一	四	四
体操教授の定型化と遊戯教育……………	高 津 勝	一	六	六
所得税法における「課税所得」をめぐる……………	植 松 守 雄	二	一	三
イエナ時代のヘーゲル……………	上 妻 精	二	七	五
——一つの素描——……………				
テキスト解釈における「疎隔」の機能……………	久 米 博	二	四	一
——リクールとガダマーの出会い——……………				
『マクベス』——人間判断について(1)……………	山 田 直 道	二	六	五
原爆被害者運動と実態調査……………	浜 谷 正 晴	二	七	八
基本語彙に関する一考察……………	竹 内 和 夫	三	一	四
× 25 ——トルコの教科書から——……………				

スペイン語文法論試案	原 誠	三	二六
モンゴルにおける乳製品を表わす語彙について	田 中 克 彦	三	二九
日本封建制の「アジア的」特質	永 原 慶 二	四	一
——学説史覚書——			二七
保険産業論の展開	広 海 孝 一	四	二四
わが国のヨーロッパ法史研究	勝 田 有 恒	四	二六
——近代法史の発展にむけて——			四〇
社会システムと企業組織	今 井 賢 一	四	二五
中国客家史研究の新動向	中 川 学	四	二九
心理学における対象と方法の変遷	中 村 恵 一	四	二八
“as best I can”	山 川 喜 久 男	五	一
——その慣用法的特徴と歴史的発達——			四三
キーツのソネット『輝く星』をめぐって	菊 池 亘	五	二
詩心の錨	宮 下 忠 二	五	二
——キーツ・一八一八年——			五三
ヴィクトリア朝中期の社会覚書	山 田 泰 司	五	二八
ユダヤ啓蒙運動家としてのアイザック・レイブッシュ・ペレツ	平 野 信 行	五	二七
「緋文字」Aの「意味するもの」と「意味されるもの」	萩 原 力	五	二八
——ヘスタをめぐって——			五五
商業信用論と字野理論	頭 川 博	五	二五

ヘーゲル弁証法的論理に関する一考察……………	島崎隆	五	二二	五七四
——「論理的なもの」の三側面を中心にして——				
三重紡績成立前史……………	藤津清治	六	一	五九九
——三重紡績所——				
オルダム綿紡績会社設立ブーム……………	米川伸一	六	二六	六四四
——一八七三〜七五——				
イギリス電機産業形成期における技術・市場・企業者活動……………	坂本倬志	六	三六	六四四
第一次大戦前におけるイギリス海運企業金融の特質……………	神武庸四郎	六	五三	六〇〇
戦前期日本航空機工業資本の蓄積過程……………	疋田康行	六	六七	六五五
研究ノート				
スポーツ権と国民スポーツ運動……………	伊藤高弘	一	九	七九
日本における「クーベルタン像」について……………	早川武彦	一	八五	八五
ヤーン像再検討の視点……………	上野卓郎	一	九三	九三
——西ドイツ体育史家の一つの試み——				
戦後保健教育論の系譜……………	藤田和也	一	一〇〇	一〇〇
——文献整理・解題を中心に——				
ラグビーからアメリカン・フットボールへの発展……………	川口智久	一	一〇八	一〇八
——スクラムをめぐる問題——				
アダム・スミス研究の現状と問題……………	八幡清文	二	九三	三三

——『アダム・スミス論集』を中心に——	一瀬 益 夫	二	100	三三
---------------------	--------	---	-----	----

——Boorman-model による分析——

「偏」と「泛」	梅 谷 文 夫	三	六	三〇一
---------	---------	---	---	-----

——富永仲基の「五類」について——

『魯語文法規範』考	中 村 喜 和	三	六	三〇六
-----------	---------	---	---	-----

遠似値への接近

——右と左の象徴的分類に関するニードムの所論をめぐって——

イギリス初期鉄道会社と投資家	湯 沢 威	六	七	六五
----------------	-------	---	---	----

産業革命期イギリス綿業における企業者活動	鈴木 良 隆	六	六	六四
----------------------	--------	---	---	----

——戦略決定過程と戦略類型——

資料紹介

十七世紀に見る・世界語の工夫	鈴 木 秀 勇	三	四	三四
----------------	---------	---	---	----

——ヤン・アモス・コメンスキーの場合——

史料紹介

カヴァースヴァ文書について	安 部 悦 生	六	四	三〇一
---------------	---------	---	---	-----

年譜・著作目録

鈴木正先生略年譜……………	一	二五	二五
名誉教授亀井孝先生略年譜……………	三	二八	三八
名誉教授亀井孝先生著作目録(抄)……………	三	三〇	三〇
報			
博士論文要旨および審査要旨(富沢賢治)……………	一	二八	二八
博士論文要旨および審査要旨(岩田昌征)……………	五	三八	五〇